

(AL 関連の実践) 毎回の授業にペアワークを取り入れ、生きる力を習得する (2018 年 11 月 20 日掲載 更新なし)

(AL 関連の実践)【中学/社会】毎回の授業に 2 分×3 回のペアワークを取り入れ、生きる力を習得する

出口善明 (清教学園中・高等学校)

溝上のコメントは最後にあります

対象授業

- ・ **授業**：中学 2 年生 社会 (歴史的分野)
- ・ **生徒**：41 名
- ・ **教材**：『中学生の歴史』(帝国書院)、『資料カラー歴史』(浜島書店)、『歴史基本用語集』(創育)、授業プリント

第 1 節 授業の目標

本時の授業では、室町文化が民衆へ、そして地方へ広まったことにより、日本の伝統文化の基礎となったことを理解させる。また、キリスト教と鉄砲が伝来した理由について考えさせ、大航海時代に影響を与えたイスラム世界の発展について理解させる。

一方、年間の授業を通して、知識・理解だけではなく生きる力(学力の三要素)である思考力・判断力・表現力と主体性・対話性・多様性を生徒が習得することを目標としている。そのため、KP 法(紙芝居プレゼンテーション法)を活用し、授業目標、ルール、授業の流れなどは毎回ホワイトボードに貼り出している(図表 1・2)。

<p>《授業目標》</p> <p>学力の三要素習得</p> <p>①知識・技術</p> <p>②思考・判断・表現力</p> <p>③主体・対話・多様性</p>	<p>《ルール》</p> <p>切りかえを早く</p> <p>話は正対し目を見て聴く</p> <p>安心・安全の場を作る</p> <p>質問・説明・調べる・メモ</p>
---	---

図表 1

図表 2

第 2 節 授業の流れと工夫 (50 分)

(1) 前時の復習 (ペアワーク 約 5 分)

ペアワークには個→協同→個のサイクルを活用している。また、ペアワークは LITE(Learning in Teaching 教えることで学ぶ)の方法で行っている。流れは以下の通りである。

- ① 1 分間で生徒が各自授業用ノートを復習する。
- ② あらかじめ決まっているペアでの話し合いにより説明者を決め、確認のため説明者には手を挙げさせる。
- ③ 2 分間で説明者がペアに前時の内容(あらすじ)を説明する。

ペアワークで参照していいのは授業ノートの右側半分(自分のメモ)のみとしている(図表 3)。自分のメモだけを見てあらすじを話すことで、有意味学習(深い学び)につながると考えられるか

(AL 関連の実践) 毎回の授業にペアワークを取り入れ、生きる力を習得する (2018 年 11 月 20 日掲載 更新なし)

らである。話し方や聞き方についてはペアに正対すること、相手の目を見て聞くことについて指導している (図表 4)。復習やペアワーク中には時間を前に表示し、生徒に時間の感覚を身につけさせるよう心掛けている (図表 5)。



図表 3



図表 4



図表 5

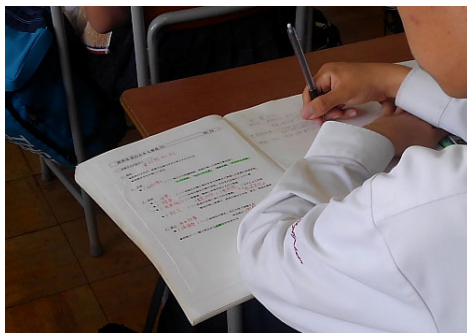
(2) 展開 1 (講義→ペアワーク 約 25 分)

① プリント穴埋め (5 分)

授業用ノート左側の授業プリントの空欄穴埋めを行う。プロジェクターを使って授業プリントをスクリーンに映し出す。板書をしないことにより、講義の時間を短縮している。

② 講義 (15 分)

授業プリントや資料集を、iPad アプリ「MetaMoJi Note」を使用し、AppleTV でスクリーンに映しながら講義を行う。講義は生徒の集中力を途切れさせないために 1 回 15 分程度にしている。生徒はノートの右側にメモを取りながら聞く (図表 6)。講義後にはペアワークがあり、ペアワークでは自分のメモしか見ることができないので、生徒は 1 授業あたり A 4 用紙 1 枚ほどメモを取る。講義をしながら、授業プリントの説明している部分をスクリーンに映すことで、視覚的補助をしている (図表 7)。一方、講義では大学入試レベルの深い話まで取り入れることで、生徒の興味・関心を引くようにしている。講義時間の短縮とペアワーク時間の確保のために、板書や生徒個人に対しての質問は基本的に行わない。



図表 6



図表 7

③ ペアワーク (5 分)

講義の内容について、「1. 前時の復習」と同じ方法で復習→ペアワークの順に行う。

(AL 関連の実践) 毎回の授業にペアワークを取り入れ、生きる力を習得する (2018 年 11 月 20 日掲載 更新なし)

(3) 展開 2 (講義→ペアワーク 約 25 分)

学習内容を変え、①～③の方法を繰り返す。

第 3 節 課題

授業の進度があるので、2 分のペアワークを最大でも 3 回取り入れるのが精一杯である。アクティブラーニングを取り入れる時間が少ない中でも、生きる力(学力の三要素)の習得を目指し、現在の形に至っている。しかし、学びの深さについて、特に思考力を養うような形に内容を掘り下げる必要を感じている。今後は、単元導入として先行オーガナイザーを利用して授業内容の疑問点を学習前に生徒たちに出させるグループワークや、単元の学習後に論述問題に取り組むグループワークを取り入れること、学習内容を発表する機会を作ることなどを検討中である。

生徒の身体性について、ペアワークで正対することや相手を見て聞くなどのことは、1 ヶ月ほど指導し続けると生徒もほぼできるようになる。しかし、生徒全員に徹底できているわけではない。単独で指導するだけでなく、学年でルールを決めて身体性についての指導をしていくべきだと考えている。身体性の中身については、今年度は 1 学期にペアワークでの体の向きや、聞く際の視線について指導してきた。2 学期にはこれに加えて自分のメモを相手に見せながら、相手の目を見て説明するという指導をしていこうと考えている。どこまで生徒に要求するか、どの段階で要求するかを今後考えていきたい。

現在は授業内でできるだけ完結するように授業デザインをしている。今後は授業の受動的な部分(ノートの空欄穴埋めなど)を家庭学習とし、授業でアクティブラーニングを取り入れる時間を確保していきたい。

溝上のコメント

- ・ ふだんからアクティブラーニング型授業をおこない、生徒のアテンション(注意力)や態度、動作について細やかな指導が入っているのが、すぐさま見て取れる授業だった。図表 7 のように講義のときにはしっかり聞き、図表 4 のように、ペアワークのときにはお互いに身体を向け合ってしっかり考えを述べ、議論をしていた。
- ・ 学校から仕事・社会へのトランジション(*参考)に向けて、学力の三要素、思考力・判断力・表現力等をしっかり育てる教育観が授業者の中にある。
(*参考)(理論)学校から仕事・社会へのトランジションとは
- ・ アクティブラーニング型授業の基本形である個-協働-個の学習サイクル(*参考)がしっかり採られている。
(*参考)(桐蔭学園の教育改革)個-協働-個の学習サイクル(関谷吉史)
- ・ ワークをするときには、図表 5 のようにタイマー表示をしている。小さなチップスだが、限られた時間のなかでワークをするという習慣を身につけさせたい。
- ・ 出口教諭は基本的に板書をしないで、プリントワークで授業を進める。進度の問題(*参考)に対応するためには、板書を極力控えることである。図表 6 のように、生徒はプリントをノートの左に貼り、右に、授業者の説明を聞いてのメモをとっていた。すばらしかった。

(AL 関連の実践) 毎回の授業にペアワークを取り入れ、生きる力を習得する (2018 年 11 月 20 日掲載 更新なし)

(*参考) (講話) 授業進捗の問題をどう解決するか

- ・ 理解して定着させる習得型の授業としては十分に高く評価できる。他方で、思考力を問う、答えが1つとは限らない活用問題など、単元の時間の1割でいいから導入できれば、そしてそれを習得型の学習の一つのワークだと見なせるようになれば、もっと良い学習を作り出せるだろう。今後の活躍に期待している。

プロフィール



- ・ **出口 善明 (でぐち よしあき) @清教学園中・高等学校 (社会科)**
- ・ 一言: 日々行われる授業の中で、知識・理解だけでなく、社会に出て必要な力を身につけてほしいと思っています。そのために、生徒が椅子に座って講義を聞くだけでなく、書く・話す・発表するなどの練習を授業の中に組み込む工夫をしています。